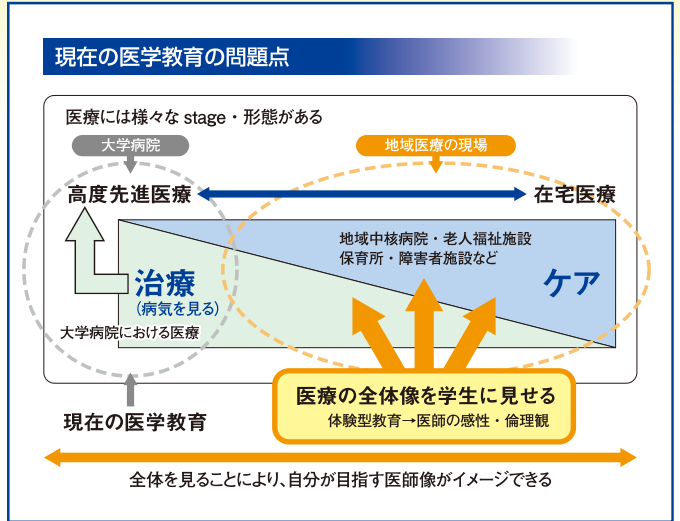
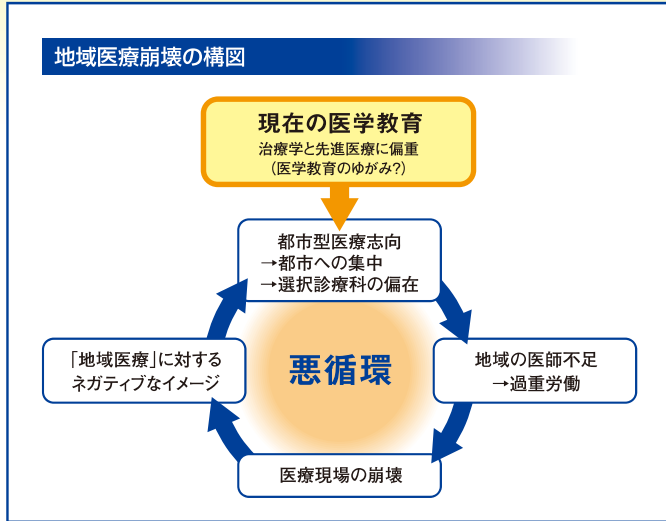
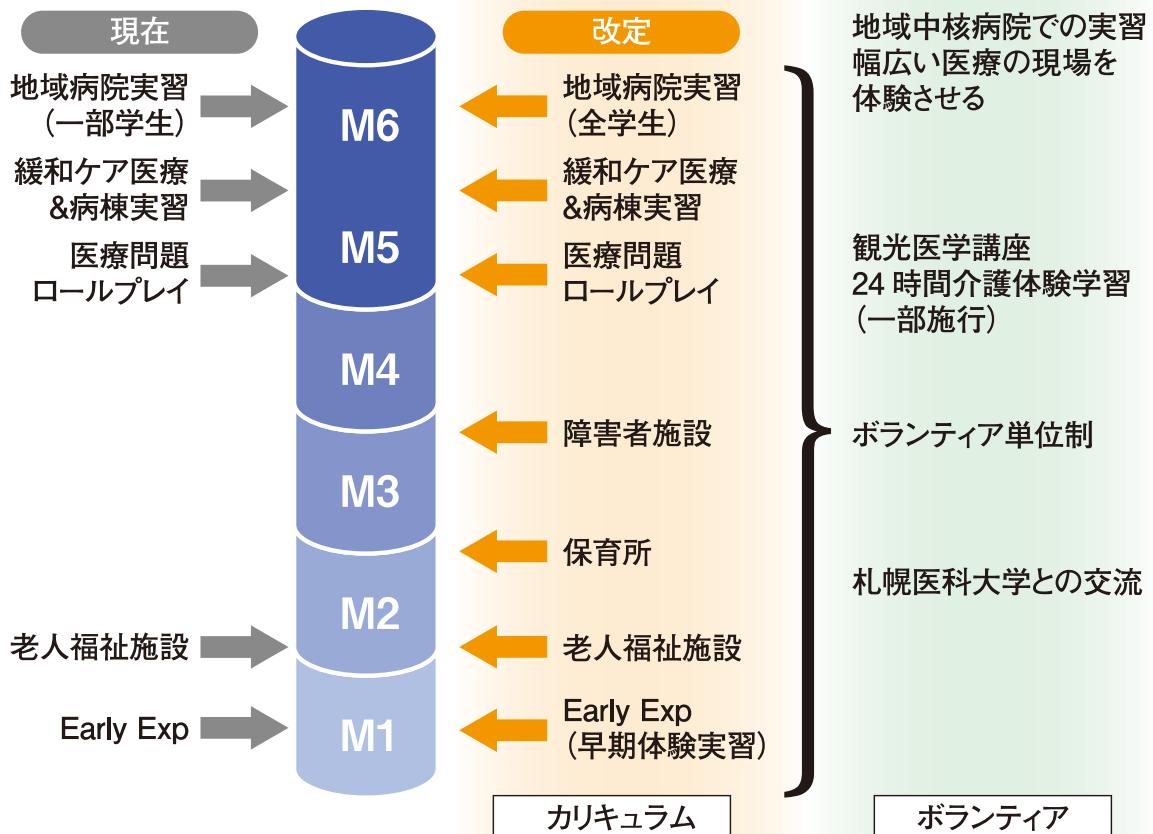


実践的「地域医療マインド」育成プログラムの概要



地域医療マインド育成プログラム



現在、地域で住民が安心して暮らすための基盤の一つである地域医療が崩壊の危機に瀕しています。この原因の一つとして治療学と高度先進医療にのみ重点を置いた現在の医学教育のゆがみがあるといえます。そして、この医療教育のゆがみが学生の都市型医療志向を生み、それが医師の都市への集中、地域の医師不足、地域医療の崩壊、地域医療に対するネガティブなイメージ、医師の都市への集中、というデフレスパイラルを生んでいるのです。

本学では、高度な医学知識・技術を培う医学教育と、豊かな人間性涵養を目的とした「ケアマインド教育」を医学教育の2本柱としたカリキュラムを実施してきましたが、「ケアマインド教育」を「地域医療マインド教育」に継続・発展させます。

「地域医療マインド教育」とは、高度先端医療から在宅医療までのさまざまな医療のス

テージ・形態(医療の全体像)を学生に体験させ、考察させることにより、学生が自分自身の目指す医師像をイメージできるようにするというものです。そして、「地域医療」に対するネガティブなイメージの払拭を図り、最終的には地域医療の再生を目指すものです。

本学では、この地域医療の再生という最終目的を達成するために、地域医療に視点を置いたカリキュラムの構築やボランティア活動等の支援を行うことにより、「地域医療マインド」を持った医療人を育成するという「地域医療マインド教育」の推進します。そして、学内に既に存在する地域医療を支援するための機構との連携を密にし、学生と地域で働く医師とそれをサポートする組織を統合した「地域医療支援システム」を構築することを目的として、「地域医療マインド育成センター」を設置し、このプロジェクトを推進していきます。

「地域医療マインド」育成プログラムの内容

4つの項目

地域医療マインド育成センターでは次の4つの取組を行います。

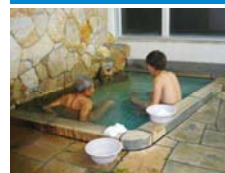
- 1 **カリキュラムの中で「地域医療」に目を向けさせる。**
 —— (医学部)1年生から6年生まで地域に密着した連続的カリキュラムの構築
 老人福祉施設・保育所・障害者施設・地域病院での実習
- 2 **学生の自主的活動を支援する。**
 —— 「地域医療」に関する医学生・保健看護学生の自主カリキュラムを募集・支援
 —— 学生のボランティア活動の支援
 —— 地域医療サークル活動の支援
- 3 **学生支援を行う教員の資質向上に取り組む。**
 —— FD(Faculty Development: 教員の教育能力の向上と開発)、
 SD(Staff Development: スタッフの能力開発)の実施
- 4 **学生にとって魅力的な地域医療を創出するための支援を行う。**
 —— 本学における地域医療のトライアングルである、「地域医療の現場」
 「生涯研修・地域医療支援センター」「地域医療学講座」間の連携を支援し、
 現場を体験した学生の視点、地域医療マインド育成の視点から、
 それぞれの機構に対しフィードバックを行う。

老人福祉施設での実習



本学ではケアマインドを併せもった医療人の育成を効果的に進めるため、平成18年度から、これまでの医療機関だけでなく、特別養護老人ホーム等の地域福祉関係施設での体験学習を拡大実施した。この実習によって、学生は自分たちの社会的知識の不足を認識し、命や健康の持つ重みを理解し、かつコミュニケーショントレーニングを回る実践活動につなげることが可能となった。(この実習は、平成18年度に採択された特色ある大学教育支援プログラムの事業として実施されました。)

観光医学講座ツアーでの介助体験



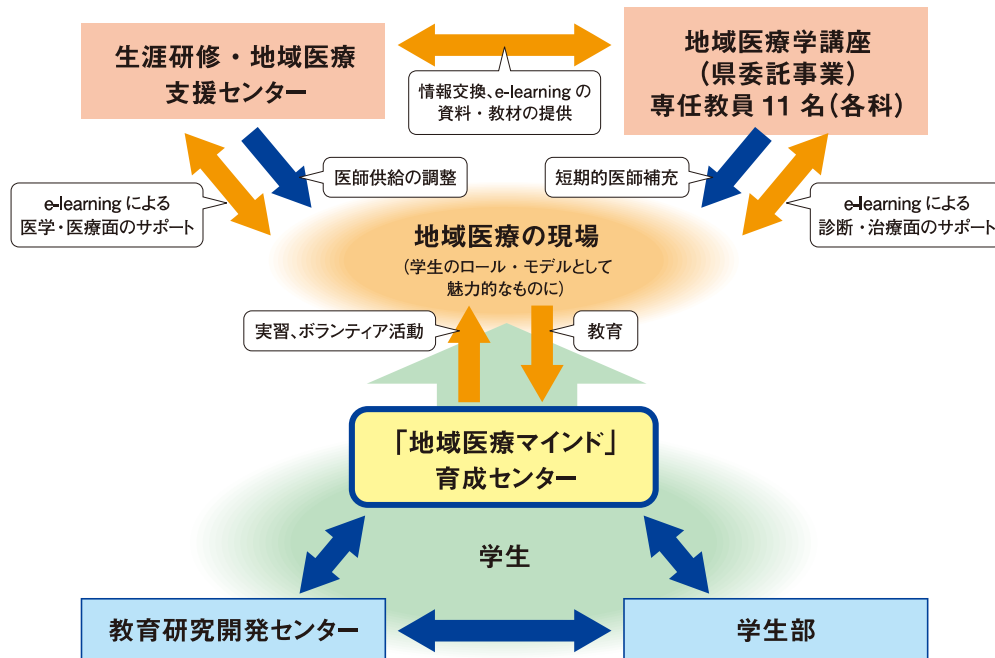
本学には、全国に先駆けて設立された観光医学講座があり、そこでは健康と観光を統合したツアー「ヘルス・ツーリズム」を医学部、保健看護学部、NPOの協同で実行し、効果の医学的検証を行っています。平成18年度は初年度にも関わらず、糖尿病・パーキンソン病・乳ガン・人工肛門など疾患患者を対象としたツアーが行われ、そこに本学学生がボランティアとしてツアーに随行し、24時間の介助体験をしました。このような介助体験は、病院ではみられない患者の生活や心に触れることができ、医療人としての資質の育成に大変役立っています。



観光医学講座「医療サービスを付加したツアー企画」での介助体験実習(Parkinson病の患者さんと)食事および入浴の介助の様子

組織連携による「地域医療マインド」育成の効果

〔組織連携図〕「地域医療マインド」育成プロジェクト



効果

「地域医療マインド」を持った医師を育成するための各種施策の実施主体となる「地域医療マインド育成センター」を開設し、1年生から6年生までの地域医療に密着した連続的カリキュラムの構築や学生の自主活動を支援すること等により、地域医療の現場に行き、住民の生活を見て、生の声を聞くことができます。このことは、学生に医療の原点に立ち返って自らが志した医師のプロフェッショナルリズムに目覚めさせ、結果的に地域医療を支える人

材を輩出することにつながり、崩壊の危機に瀕している地域医療の再生をはかることができます。

また、学内に既に存在する地域医療を支援するための機構との連携を密にし、現場を体験した学生の視点や地域医療マインド育成の視点からそれぞれの機構にフィードバックすることで、魅力的な地域医療現場の創出に貢献できます。